

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	2棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvCd=4572000562-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中に立地しており、豊かな自然環境に恵まれています。気候の良い時には、広い庭で体操したり、歌を歌ったり、ボールで遊んだり、裸足で芝生の上を歩いたりして、下肢筋力の低下を防ぐ工夫をしています。個々の状況に合わせたケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者の居住の多いアパートや振興住宅が広がりつつある環境にあつて、近隣の人々に地域密着型事業所の理解を得るため、芝生の園庭を解放し、幼稚園児や学童児との触れ合いの機会を設けたり、住民の憩いの場作りに花を植え、ベンチを置いて、利用者と地域住民のコミュニケーションを深める支援をしている。利用者が住み慣れたこの地域で穏やかに、生きがいを取り戻し、笑顔で生活できるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員で考え、常に見える場所に掲示し、職員全員で共有して、日々のケアの中で実践している。		地域密着型サービスの意義を踏まえ、実践しやすく、また、わかりやすい言葉や内容に作り変えている。日々話し合うことで、理念が支援につながる努力を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい事業に参加したり、近所のお宅の花壇を見学させて頂いたり、顔なじみの方の踊りの慰問を受けたり、幼稚園児と触れ合ったり、日常的に交流している。		近隣の住民や幼稚園の散歩コースでの休憩所や遊び場として芝生の庭を解放している。ボランティアを招いたり(コーラス・ハーモニカ・豆まき等)、地区高齢者のふれあいサロンに出向き、利用者が地域交流を楽しめるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会の催しものを行い、地区の役員の方々に見に来て頂き、少しでも施設を理解して頂けるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現状及び利用者状況を報告して、意見交換を行い、サービスの向上につなげ、より良い施設づくりに活かしている。		行政職員をはじめ、地域の代表者も多数参加し、定期的開催している。ホームの報告や相談を交え、建設的な意見や提案が活発に出され、改善につながる事項が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問を受けたり、分からないことを相談したり、利用者様の入退所の状況を報告する等、常日頃から連絡を密にして協力関係を築くよう取り組んでいる。		行政・地域包括支援センターの職員と気軽に話し合える関係を築くため、積極的に行政的問題等で出向いたり、電話等で相談をしている。長寿会の作品展に、利用者の作品の出展が実現した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。新しく入所された時だけは、状況が把握出来ない為施錠している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は、ご家族に説明し、同意を得ている。その際は、必ず必要な記録を残している。		月1回の会議において、身体的拘束やスピーチロック・介護放棄について話し合う機会を持っている。やむをえない場合は、家族へ説明し、同意をもらっている。職員は、拘束の弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないよう、職員同士でも注意しあう体制づくりに努め、また、トイレに貼り紙をして、常に目に訴えることで、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の制度を使われている利用者もおられ、定期的に訪問されている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書に基づいて十分説明を行い、疑問点や質問等を確認して、納得して頂いた上で署名捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。サービス担当者会議等で、ご意見やご要望を伺い、また、面会時での会話の中で伺ったことを、管理者職員に情報提供し、全職員で共有するとともに、今後のケアに反映させている。		運営推進会議や担当者会議で意見が出されている。また、家族の来訪や受診付き添いの言葉使いや表情であったり、月1回の介護相談員との相談から、言いにくい事を察し、職員間で検討し、日々のケアに生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議やケア会議の中で、職員の意見や提案を聞き、働きやすい職場となるよう、意見や提案に対して反映出来るように努めている。		管理者は、ユニットごとの責任者や全職員への教育および要望、意見をホームの運営に取り入れるよう努めている。調理専門者を採用して、職員が介護に専任できる仕組み等の多くが管理者の負担になっている。	個々の職員が、研修の企画や実施、記録の検討、避難訓練およびレクリエーション等のリーダーとなる機会を作り、管理者の兼務の負担を軽減することで、それらが職員の育成にもつながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が明るく元気で、やりがいのある楽しく働きやすい職場づくりや豊かになれるよう、条件整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修は、必ず一度は参加するよう定めている。他の研修についても、研修内容を掲示し、参加を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との交流をする機会が、なかなかないのが現状なので、研修会に参加することで、他の施設との交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人、家族に困っている事や不安に思っている事、また、入所に当たっての要望についてじっくりお話を伺い、それに基づいてプランを作成し、安心して頂けるように、関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をして頂いたり、お宅に訪問して、本人様とお会いして、顔なじみの関係を作り、ご家族の不安や要望をお聞きするように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれの関連の関係機関に相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に屋内・外の掃除をしたり、いろいろなお手伝いをしていただき、共に生活する者としての関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、ご家族と一緒に、ゆっくり過ごせるように配慮し、こまめに連絡を取り合い、いつでも相談できる関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りやなじみのお店に買い物に行ったりしている。	購読していた本屋さんを利用したり、なじみの店にショッピングに行ったり、墓参りが困難な家族に代わり支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を大切に、お話の合う方と席を近くにしたり、配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状をお出ししたり、お見かけした時は挨拶を交わしたり、近況をお伺いしたりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添えるよう、お話を聞く時間を多く設け、話しやすい環境作りに努めている。	家族や関係者に話を聞いたり、日々の生活を通し、できるだけ傾聴し、思いや意向の把握に努めている。得意なこと、興味を持っていることを話題にしながら、話せる環境作りをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお話を伺ったり、各サービス機関より情報を頂き、状況把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安全や健康管理を怠らず、個々の心身の状態や有する力を把握し、出来ることはして頂き、出来ないことは支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが中心となり、アセスメント記入等を行い、ご本人、ご家族の意向をお聞きしている。職員全体での検討会も行っている。	利用者や家族の意向、基本情報、介護記録、日誌を基にアセスメントし、本人の状況に沿った介護プランが立てられ、毎月モニタリングしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、当日の勤務者が、その日の様子やサービスの実践結果を記入し、職員全体で情報の共有把握に努め、新たな気づき等も記録するようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な体調不良時等で、ご家族が対応出来ない時は、病院受診の同行をしている。また、ご本人のご家族への電話希望の際も、時間帯を考慮しながら支援している。			

宮崎県川南町 グループホームすいせん川南(2棟)

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい事業に参加したり、近隣のお宅の花壇を見学に行ったり、近くの幼稚園の園児と触れ合ったり、地元の消防団の方の協力を頂き、避難訓練を行うなど、地域資源の活用に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望する病院をかかりつけ医としているが、ご本人の状況により、専門医の受診を提案している。受診の際は情報提供書を提示し、医療との連携を支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、常に体調や表情の変化に注意を払い、変化があれば、速やかに主任およびケアマネに報告し、受診等の適切な対応が出来るよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報書は、緊急時に備え常に準備がしてある。入院中の経過を把握するために面会を行い、退院に向けて、病院関係者との連携に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの導入はしていないが、それに近い、ギリギリのケアの事例はある。急変時の対応については、ご家族の要望はお聞きしている。常に病院との連携を取り、急変時での対応をお願いしている。		看取りについては、協力医やかかりつけ医の受け入れが整わないこともあり、文書化していない。契約時に本人、利用者には、現時点で対応できる方針を説明し、理解を得ている。過去においては、家族の希望で看取りに近い支援に取り組んだことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員より、救命救急法の研修を受け、急変時に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地元消防団や消防署、地区役員の方々との訓練も行い、地域の協力を呼び掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お名前を呼ぶ時には、さん付けに気を付けていたり、優しい言葉かけや敬語の使用に心がけている。排泄の際は、声掛けやきちんとドアを閉める等の配慮したり、入浴時は肌の露出が少ないように気を付けている。		言葉使いに気をつけるだけでなく、声のトーンや速さにも気を配り、年長者としての誇りを傷つけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に問いかけを行い、ご本人の希望に添えるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何を望まれているかお聞きし、体調を伺ったりしながら、ご本人の希望に添えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には、ご家族に連絡して、必要な衣服を持ってきて頂き、管理手入れを行っている。爪切りは、週1で行い、髪が伸びてきたら、ご本人に伺いカットするなど支援している。衣服もご本人に選んで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員も一緒に同じものを頂き、味、盛り付け、量が適切かを確認したり、食べたいものは何かをお聞きしている。野菜の皮むきやテーブル拭き、お盆拭きを手伝って頂いている。		季節や行事に合わせた料理を提供している。専従の調理員4人が交代で調理に携わり、機能に応じた食事療法を行っている。利用者は力量に応じた食事の準備をしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲み楽しい食卓にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの状況により、食事の量や塩分調整を行ったり、また、キザミ食やミキサー食の提供を行っている。水分摂取量の少ない方には、ゼリーを提供したりお好みの飲み物を提供するなど工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は、ポリドント洗浄を行い、義歯磨きが不十分な方は、職員が手伝って清潔に保てるよう配慮している。お口の中の状況も確認している。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録し、その記録により、時間を見て声掛けて排泄を促し、支援している。また、出来る限り布パンツの使用を心がけている。		日中は排せつ記録からパターンを把握し、トイレ誘導を行いながら、尿とりパット・紙パンツでの対応をしている。現在、夜間のオムツ対応者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、服薬コントロールをしている。食材に、オリーブオイルやヤーコン、牛乳を取り入れて工夫をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添えるよう、一番風呂の好きな方は、一番入って頂いたり、ゆっくり浸かりたい方は、最後までゆっくりお風呂を楽しんで頂いている。		基本的には、週、夏3回、冬2回としているが、利用者の希望に沿う支援をしている。健康上や精神的な理由での入浴拒否等には、ケースバイケースで柔軟に対応している。入浴剤や保湿剤で楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に応じて、対応出来るような体制にしている。個室での休息の時は、ナースコール対応やエアコンの調節をこまめにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、職員同士の申し送りや準備を二重チェックする等、慎重に行っている。最後まで飲み込まれたのを確認するように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の生活歴を確認して、その方の好きなことやしたいことを把握し、楽しく過ごせるよう支援している。お庭の掃除や塗り絵、カラオケ、風船バレー等、個々に対応している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、体調が良い時は散歩など外気浴を行っている。気候が良くなるので、買い物支援を予定している。		計画を立て、小グループを交代で外出支援している。近隣の田園や野原の探索、ドライブを兼ねた買い物、公園、外食など利用者の健康状況と天候をうかがいながら実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の意向を大切に、お財布を所持されたい方は、決まった金額のお金を持っておられます。事務所で管理される方もおられます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望がある時は、支援している。また、情報誌を発行し、個別に近況を記載したり、お手紙が届いたときは、お返事をお出ししている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はゴーヤを植えて、緑のカーテン作りを行い、涼を感じて頂き、心地良く過ごして頂くよう工夫している。また、湿度計を設置して気温管理を行っている。季節ごとに室内装飾を行い、季節を感じて頂けるよう努めている。	温度や湿度管理を目的に、3台の加湿器をフロアに置き、健康管理に重点を置いている。畳のフロアやソファが置かれ、寛げるスペースを用意している。職員や利用者の家族の持ち寄る季節の花で季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意向に応じて、休みたいときに自由に休まれています。ソファで仲良く談笑されたり、歌を歌われたり出来るように環境を整えている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていたものを持ってきていただいている。テレビや家具の位置はご本人の意向を取り入れている。	家庭で使い慣れたタンスや小物、仏壇が持ち込まれ、それぞれが自分らしい居心地よい居室になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札にて、ご自分のお部屋が分かるように工夫している。トイレや手洗い等も分かるように明示し、案内を行っている。			